明治三十二年九月二十日發行
（明治二十一年二月二十八日内務省許可）

婦人衛生雜誌

第百拾八號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百拾八號目次

講演

寄書

衛生叢談

中外彙報

近事談片

養生淺説

官報

廣告

入會轉居

會告

追々暑氣も薄らき候に付本會例會の義本月下旬開會の豫定に候處講師中にも未だ旅行地より歸京せざる方多く準備上本月は大に切迫致し候間來十月第一土曜日に延會致し候間右御了承相成度候也

明治三十二年九月十五日

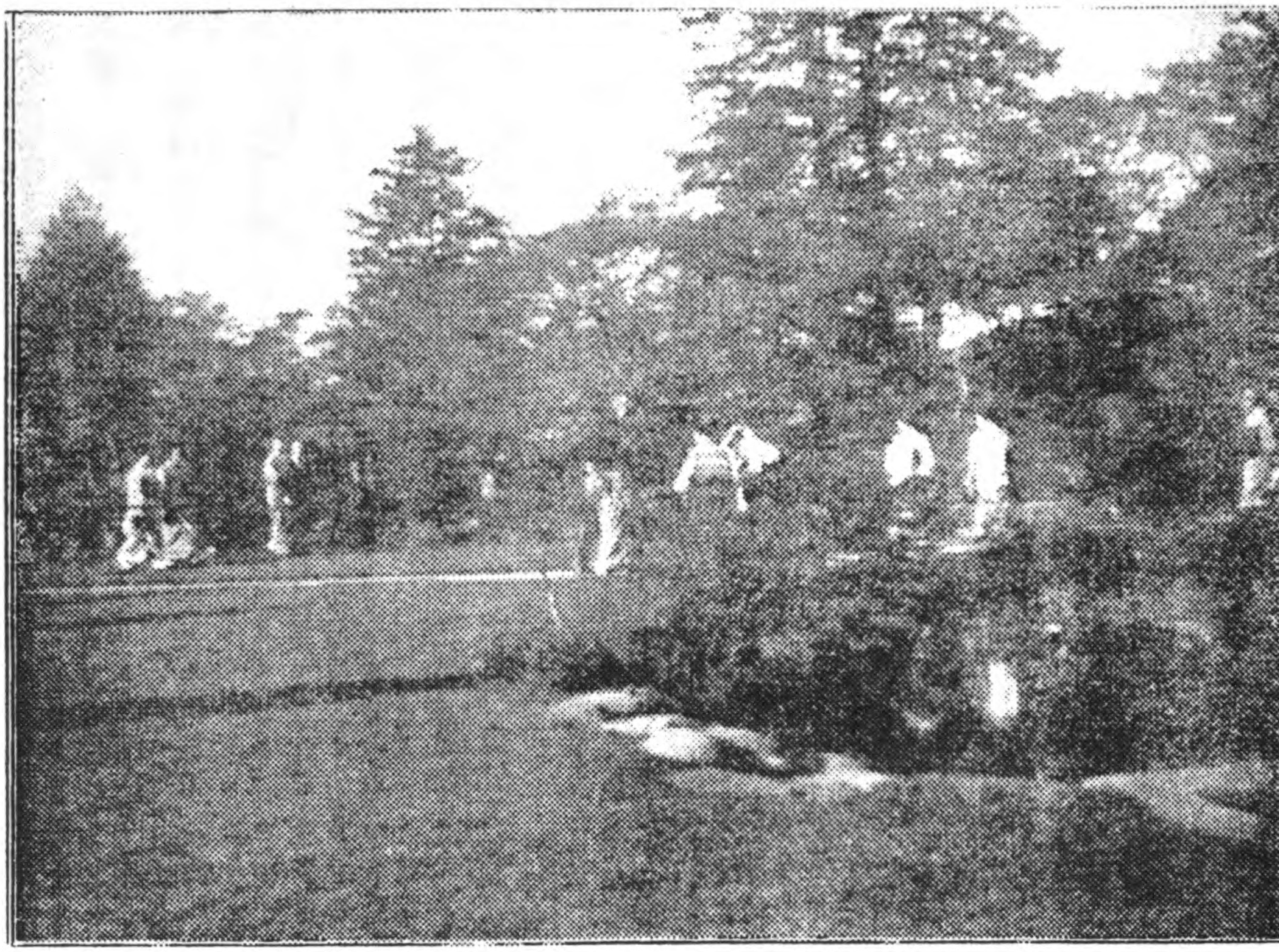
私立大日本婦人衞生會

Thirteenth Spring party of Japanese Women Sanitary Association held at Count Okuma's garden.

April 15th 32nd year Meiji.

大日本婦人衛生會第十三次春期懇親會　大隈伯爵邸内に於て明治三十二年四月十五日

其三



其四



The Same.

婦人衞生雜誌第百拾八號
（明治三十二年九月十五日發行）

講　演

●習慣性脊柱彎曲症（Scoliosis habitualis）

文部省學校衞生主事
醫學士　三島通良君　述

本篇は大日本私立衞生會第六回衞生事務講習生及び國家醫學會々員に對して演説したるものゝ速記にして特に同氏より本會へ寄送せられたるものなり毎度ながら氏の厚意を謝す

本日御話を致しますのは、寧ろ醫者の方に關係の多い事柄でござりますから、諸君の中、或は此事に就て、餘り趣味を感ぜられぬ人もござりませう、然し純粹の醫學問題と、それからして學校衞生に關係したことも、兩方交ぜて御話をしたいと思ひます。

脊柱彎曲症（習慣性脊柱彎曲症）此は矢張り一ッの病氣であります、病氣と言ッて可いか、正しく言ッたら畸形と言ふ方でありませう、此病は、學校と云ふものと、大變に密接の關係のあるもので、ありますからして、此事が、世の中に喧しく、學者の口の端に戴ッたのは、甚しい昔からでないやうであります。歷史を、詳しく調べて見たら、随分古い所から話のあッたことかも知れませぬが、兎に角、公けの報告となッて、世の中の人が知ッたのは、極く近年のことであります。其中にも、此事に就て、餘程詳しい研究をしまして、世の中に報告をしたのは、今を去る七年前、千八百

八十二年に、ウエ、マイエルと云ふ人がござりまして、其人が、獨逸の中のバイエルン國に、醫事通信錄と云ふものがありますが、此醫事通信錄には此事を書き載せまして、此が先づ最初の公けの報告であるやうです。

其後、續々此事を、學術の雜誌、特に學校衞生の雜誌などに書いたこともござりますし、又立派な書物にも記載されました、特に學校衞生の雜誌には、此問題に就て、反覆議論がござります。

我邦に於きまして、此病の事に就て研究をいたしまして、其報告をいたしたのは、恐らく私が初めだらうと思ひます、此事は、丁度私が學校衞生の取調を始めたのが明治二十四年（今を距る九年前）でござりまするが、其時初めて九州を巡回しまして、諸方の學校に書物に書いてあるやうな、脊柱の彎曲ッた者があると云ふことを發見しました。それから翌二十五年に、又奥羽地方を巡回いたしました時に、再び學校に此脊柱彎曲症のあることを認めて、其を復命書に書き載せて出しました、（學校衞生取調復命書摘要第六九頁）是れ我邦に於て、學問上から此事を研究して報告した嚆矢であらうと私は信じて居ります。其時私の報告書に書いたのに、此病に罹つて居る者が隨分澤山ある、先づ生徒の半數以上は、此病に罹つて居るらしい、固より其時分には、まだ正しい統計を示す程の檢査をいたしませず、只眼で見たけで、其半數以上は、此病に罹つて居るものであると云ふことを書いたのでござります。其時私の感したのは、歐羅巴の學者の說に依りますと、外國では學校の生徒が此病に罹るのが、主に小學校の生徒

でありまして、中學とか、師範學校とか、それより高等の專門學校などに居る生徒には、大變に少ない、主として罹つて居るのは、小學校の生徒であると云ふことでござりますが、私の見た所では、我邦に於ては、之に違ひまして、兎角學校の程度の進む程、脊柱の彎曲した者の割合が多い、之はどう云ふことであるか、其事に就ては、まだ確なる意見は持つて居りませぬが、恐らく我邦では、脊柱彎曲がそんなに澤山學校にあると云ふことを注意するものも少なく、隨ツて學校を管理する者が、氣を付けませぬから、小學の時分から脊柱彎曲に罹ツたものがあツても、少しも矯め直しませぬから、年を經るに從ツて、脊柱彎曲の減りませぬと云ふのが、高等の學校に於ても、脊柱彎曲の多い、一の理由でありませう。外國では兎に角此事に就て氣を付けて居りますし、學校醫も注意をし、學校を管理する者も注意すると云ふ有樣でありますから、自然脊柱の曲り掛けたものも、之を直すことに注意します。又子供と違ッて成長するに從ッて筋骨が、成長しますから、體育等に依ッて之を直すと云ふことに氣が付きます、我邦より外國では體育を盛に行ひますから、體育に依ッて自然脊柱彎曲を直す道がありまする、此方法の缺けて居ると云ふことが我國の高等の學校に脊柱彎曲が多い、二の理由であらうと私は想像します、

それで是より脊柱彎曲に罹ります所の原因に就て御話をしやうと思ひます。此原因は、數へ立てると云ふと、隨分澤山あります、人に依ては、十も十五も此原因を並べて居る人がありますが、先づ

其中で重立ッた原因と認められるものは、私の信ずる所に依れば、第一には生徒の身體の抗抵力の少ないと云ふこと。それから第二には過度の教育、教育其度に過ぎて居ると云ふことであります、之に依て自然身體を弱らせ、其爲に此病に罹ると云ふこと。それから第三には不正なる机腰掛を用ゐること、即ち身體に適ひませぬ所の、机腰掛を使用すると云ふことであります。第四には書字の際に机と腰掛と相重ならしめざること、字を書くときには、必ず机と腰掛が重つて居らなければ、身體を正しくすることが出來ませぬのであります、それを重ならしめざると云ふのであります。第五には倚坐の行儀悪きこと、即ち机に掛つて居る時、姿勢を勝手次第にして掛つて居つて正しくせぬ、それが爲に脊柱彎曲を起す。第六には身躰運動の不足、身躰に無理なことをして、それを矯正する爲に運動せずに居るものでありますからして、自然と皆其爲に身躰の曲りを起した所を直すことが出來ませぬ。第七には採光の不充分なこと、明りが少ないと自然物を見る爲に身躰を曲げて、目を物躰に近けなければならぬから、それで身躰を眞直にすることが出來ませぬ。第八には細かな仕事をなすこと、特に著しいのは、細かい文字を書くとか、裁縫をするとか云ふときは、自ら目を物に近寄せなければならぬから、身躰が曲ります、斯の如く申しますれば、まだいろ〳〵ありますが、重なる原因と云ふものは、此八つであります。其中にもどれが一番此脊柱彎曲を發する原因であるかと申しますれば、それは書字に際して不正なる姿勢をなすこと、之が一番主なる原因でありま

す。それで字を書く時分に、身躰の正しくないと云ふことに就ては、例へば右の方に身躰を曲げて物を書くと云ふと、右の方へ曲がる、左の方に身躰を曲げて居れば、左の方へ曲がる。それで私の見る所では、委細はあとから御話をしますが、此曲り方の右と左とがあるものとすると外國には右に曲つたものが多い、我邦には左に曲つたものが多い、それは何んだかと申しますれば、字の書き方の違ひと云ふことが一番の原因であると、認めなければなりませぬ。即ち外國の文字を書きますときには、左の方の肘は兎も角も、右の肘は必ず机に付けて書かなければならぬ、それで若し其机が、其人の身體にあはぬとか、倚坐の姿勢が正しくないとすると、自然に右の方に身體が曲がる割合になる。我邦の文字を書くには、右は離れて居ッても書くに良いが、左の肘は付かなければならぬ、さうして右の方を自由にしなければならぬ、それで自然左に力が這入ると云ふやうな譯で、左の方が曲がるものが多い。それから物を書く時分に、紙の置き方を中央に眞直にせぬで、ハスに曲げて置きます、書生の時分には斯う云ふことを勝手次第にやります、紙を眞直に置いて書けば、身體が曲がりませぬがそれに就ては少し詳しく御話をしなければなりませぬ。

近來歐羅巴で、脊柱彎曲の議論が盛になッてから、歐羅巴の字の書き方は、自然身體を曲げるやうにハスに書いて居るそれで外國の文字を書くときは、左から持ッて來るのが當り前でありますから、自然身體が右の方に曲がるのである。それで之を曲がらせぬやうにするには、眞直に書かせればよ

いと云ふことで、斜書、直書と云ふことに就て學校衞生學者間には、隨分議論があつたが、先づ直書が正しいものと云ふことに極まつた。それで外國文字を是迄の通りで斜に正しく書かうとすれば、自然身體を曲げなければ書き惡い、然るに之を直書にすれば紙を眞直に置いても眞直に書くのだから決して身體が曲らない。それで西洋の雜誌などに紙を眞直に置いて字を眞直に書せて居る所と、是迄のやうに紙の置き方にも構はず、斜書で生徒が授業を受けて居る所とを寫眞に取ッたのがあります。少しは拵へものかも知れませぬが、兎に角斜書の方は生徒が右になッたり左になッたり、海邊の松の樹のやうになッて居りますが、直書の方は、姿勢が正しくなッて居ります。それで近來は眞書に斜書と云ふ論がありますが、それで

斯う云ふ風なことに少し目を注いで見れば、身躰が曲がると云ふことは免かれぬものであるなど別ります。所がそんならば我邦の學校ではどうするか、習字を致し、若くは書取をいたします時分に外國のやうに紙を横の方にして書くのでない、紙は眞直にして書くそれに拘はらずさう云ふ風に脊柱の曲がると云ふことがあるのは、可笑いでないかと云ふ議論が出ませう。我邦では紙の置き方、若くは書き方の斜なり眞直なりと云ふ問題でなくして、先づ今日多數の學校の生徒の身躰の曲がると云ふのは、主に生徒の身躰に適さぬ机腰掛を用ゐて居るのと、机に倚り方の正しい正しからぬと云ふ二問題であります。併し斜書、直書、紙の置き方等の問題も早晩必要になつて來るに違ひない、なぜなら多くの人の考へて居るやうに、漢字

を廢して羅馬字にするとか、外國のやうに左から右へ横に文字を書くやうにするのがよいとか、と云ふやうな說が行はれるやうになりますれば、やはりそれに就て直に起ッて來る問題であります。それから又此事に就て外に少し變ッた說を持ッて居る人もあります。其人の言ふのには、文字を書く時分に、生徒の身躰の歪むと云ふのは、一躰生徒が身躰を左の方に傾ける、さうして全躰の身躰の重みを左の肘に持たせ掛ける、それで自然と身躰が右の方に捻じれる或は曲がると云ふのである。此說に依りますると、つまり左の肘に身躰の重みを掛けると云ふことから、自然と身躰が右の方に捻れる或は曲がると云ふ爲めに起るのであッて、前からでは分かりませぬが、後から見ると、左を付いて身躰の重みを掛けますればどうするかと云へば此々云ふ風に（形を示す）左の方に捻れる、それが原因であります、斯う云ふ說もあるのであります。それでつまりどうして出來ると云ふことに就ては、それでありまするからして、いろ〳〵の說がありまして、人々に依つて考を異にして居る、此說をチョット別けて見ると。

(1)**重量偏擔說**之を唱えて居る人がフォルクマン、ローゼル、ローレンツなどと云ふ人が唱へて居るローゼルなど云ふ人の言には、一躰脊柱の曲がると云ふのは、子供の發育中に、自然重きを片方へ擔ふと云ふとから自然曲がるのである、どことでも重みは片方に掛るからだと云ふ說であります。それから第二にはこれも可笑い名前でありますが

(2)**肋骨說**これはヒューテルなど云ふ人の說であります。此人の說には肋骨は左右同形のもでない、左

右不同形のものでありますから、それが原因になッて餘計伸びた方が曲がるのだと云ふのであります、それからまだ其外に(3)焮衝說、焮衝、から起る、これはローリンゼルの說であります、脊椎骨の慢性なる焮衝性軟化が原因となつて、片方に曲がるのであると云ふのです。それから其外には(4)筋肉說と云ふ說があります、此說を唱えて居る人がズシエン、ブヴァア、デルペチ、ゲリン、オイレンベルヒ、などと云ふ人達であります。此等の說に依ると、彎曲の發生するのは、脊椎があると、其兩方に筋肉が付着して居る、其筋肉が自然伸びるやつと、縮まるやつと、アンタゴニストと云ふて必ず左右に平均を取ッて、引張り合ふて居るものである。然るに此引張り合が平均を失ふと云ふと、片方が強くなッて、片方が弱くなる、それが爲に弱い方は自然強い方に引張れる勘定になる、それで彎曲するのであると、此說には大分同意者が澤山ありまして、近來になッてはランデレル、チーペル、ウォッツエルなどゝ云ふ人が此說に左袒して居る。

それから其外にもまだ一說がある、これはラヒチス說と云ふべし、獨逸ドレスデンのルプレヒトと云ふ人が一人で強情を張ッて此說を唱えて居る。ラヒチスと云ふのは、小兒の一種の病氣でありまして、これを平易に申しますれば、化骨の不完全な病氣と言ッてよい。子供の時分から骨の化骨することが、極く不完全である、日本で言ふと――餘程違ひますが――つまり骨無しと云ふやうなのであります。此「ラヒチス」は、我邦にはないと云ふ說ですが、今日ではまだ確定して居りませぬ。

小兒科の中にも日本の「ラヒチス」は、これであると云うて。しッかりしたことを言ひ出した人もありませぬ。それ故日本の小兒に「ラヒチス」があるかないかは、未だ確定した問題でありませぬ、孰れにしても、外國で言ふやうな「ラヒチス」は日本には無い、極く似寄つたものがあるらしい、其事を詳しく申しますと長くなりますから之には深く這入り込まずに進みます。兎に角骨の出來損ひ、此骨の出來損ひがあるので、硬くなるべき骨が、硬くならぬ、絶對的に硬くならぬとか、硬くなり方が遲ひとか云ふことから、自然身躰に曲りが出來るのであると斯う云ふ說であります。向ふの人の言ッて居るのに「ラヒチス」と云ふのは、今申上げたやうな病氣でありますから、脊柱の曲がると云ふことには當然關係のあるとであるが、ルブレヒトの言ふ如くこれが唯一の原因であるとは云へぬも、大關係のあるには相違ない。又名高いウヰルセヨー先生が斯々云ふとを言つて居る、(病理學アルヒーフ第四六卷)『脊柱彎曲と云ふものは學齡期に於ける發育病である』、學校に這入つて居る中に、自然と罹かる病氣である』、『併しながら之は矢張り偏側の肩に重きを擔ひ、それが爲に偏側の筋肉が薄弱となると云ふことは必ず之に關係ありと云ふは固より論を待たぬ』、併し孰れにしても斯う云ふ風に、澤山擧げました如く、イロ〳〵の說があることでありますからして『孰れを以て脊柱彎曲の眞の原因であるかと云ふことを、斷定するは今日では六ケ敷い』、統計に依つて見れば女子は男子に比すると脊柱彎曲が大變多い、此事は私の『生徒姿勢の枝折』と云ふ本にも詳し

く書いて居ります、男子に比すれば、女子に脊柱彎曲が多いと云ふことに付ては、昔から大抵學者の説が一致して居ります、それは何ぜ女子に多いかと云へば、女子は筋骨が極く軟かであるそれで特に發育の盛なる十年乃至十四年の間に於て、學校に居る間に、不正なる姿勢を取ることがあると、今の筋骨の軟かい爲に、ヽヽコテたての土を形に入れたと同じやうに、自然身體が不正になるのであります。斯う云ふことから見ると、兎に角、身體の硬くなッたものも、軟かいうちのものと、どちらに彎曲が澤山あるかと云へば、身體の軟かい中の方の者に、此病は罹るものが多いのは明かな事實である。さうして見れば、同じ子供の中でも、女と男と比べれば女の方が多い。强いものと弱いものと比べれば、弱いものゝ方が多いと云ふことは、蔽ふべからざる事實である。これは誰の調も同じやうでありまして、私の書いた『生徒姿勢の技折』の中にも、此事實を明に記して居ります。

シワルッと云ふ人の統計に依れば、脊柱彎曲に罹つた九人の男子に比すれば女子は九十人の多きを見ると。オイレンベルヒは三百人の脊柱彎曲症患者中二百六十一人即ち百分の八十は女子である。又ケルリーケルの調べでは七百二十一人のラヒチスにして習慣性脊柱彎曲症の患者中五百七十七人、即ち八〇「プロセント」は女子で百二十四人即ち二〇「プロセント」男子であッたと云ふことを報告して居ります。斯う云ふ風に身體の弱いものと强いものとの間には、著しい相違があると云ふことは、正に證明されて居ります。さうして見れば今の「ラヒチス」のやうな病氣があれ

ば、自然脊柱の曲がるのも事實であると云ふことと
は、疑ふべからざることである。
それでありますからして、脊柱彎曲症患者の多い少いと云ふことに就ては、學校衛生上餘ほど考へなければならぬことがモ一ツある、それは今申し上げたやうに、健康なものと、虚弱なものとすれば、弱い者が餘計罹る。身體の筋骨の逞ましいものと、柔弱な者とあれば、柔弱な者が餘計罹る。斯う云ふ風であるとすれば、脊柱彎曲の多少を以て、自ら生徒の强弱を知ることが出來る。脊柱彎曲が多ければ多い程、其生徒が虚弱である、少なければ少ない程、强壯の生徒であると云ふことを知ることが出來る。故に此調を詳しくすれば同時に生徒の强弱の狀態を見る標準になります、例へば「ラヒチス」のやうな病氣は我國には稀であるとしても、子供の虚弱の者に一體大變に多い、其中でも營養不良であるとか、貧血であるとか、腺病に罹ッて居るとか云ふ生徒は、小學校には非常に多い、是迄チョイ／＼調べて見たのには、我邦に於ては生徒の中、凡そ百分の六十は、是等の病に侵されて居る。特に腺病の如きは隨分多い私の調べたのにも、——中等以上の生計をして居る家の小兒にさへ、百分の五十五以上ある、地方の分で私の所に調べの來て居るのに、熊本の生徒を調べたのに、百人中九十人も腺病に罹ッて居るところがある。腺病を見まするには、頸の「グリ／＼」、頸腺の腫脹と云ふのでありますが、此頸腺の膨脹したものが、今述べたほどある。これは序でありますから申しますが、小兒の腺病と云ふものは、終には捨て丶置くと、瘰癧になる、

其瘰癧に罹るやうなものは多く肺病に罹る。腺病と結核と云ふものは、極く親密のもので、結核は好んで腺病の身體に取付く。それで腺病の子供を其儘にして置くと、瘰癧になる、瘰癧を其儘にして置くと肺癆になる、肺癆即ち肺結核になりますからそれで、腺病が多ければ多い程、結核に罹るものが多い。結核の中にも主に肺癆に罹る。一方には、腺病の子供が多ければ多い程、脊柱彎曲に罹るものが多い、他の言葉を以て之を申せば貧すれば鈍すると云ふやうに、凌げない者は總てのことに不都合を來すと同じて、脊柱彎曲にも罹り結核にも侵される風も引き易ければ、他の病氣にも罹り易い、と云ふやうに、生徒に腺病のやうなものが多ければ總ての病人が多いと云ふやうな有様であります。

前に述べたる如く弱い生徒が多い弱い生徒が多い所に持つて來て、尙ほ机腰掛は一向生徒の身體に適當して居らぬ、又生徒も其机腰掛に掛ると云ふ方法を知らぬ、これは私の書きました『生徒姿勢の枝折』の序文の初めにも書いて置きました

何れの家庭に於ても、小兒の坐つて居る間に、體を曲げたり、足をなげ出したりすれば、行儀が惡いと云いて、之を矯直すことになつて居るに拘はらず、學校に於て、腰を掛て居る間の、行儀の惡いのは、教員が餘り嚴しくせられぬやうである、其爲にや何れの學校へ行つて見ても生徒の姿勢が正しくない

斯う云ふことを序文に書いて置きました。家に居る間は、行儀が惡いと云ふと直ぐに叱かる、おチヤンとお座りをしろ、お客さまの前で足を投げ出

すものでないと云ふことを言はれます。すわると云ふのは日本では何千年と云ふ習慣で、常に座ッて居りますから、座はることに就ては、絶えず側からも、おチャンとお座はりと云ふことを注意しますが、腰を掛けて座はると云ふことは、極く近來のことでありまするから、今でも學校のやうな所の外、腰を掛けて居る所は少い、それだから腰を掛けて、おチャンとお座はりをすると云ふことは知らぬであります。然らば腰を掛けて行儀の正しいと云ふは、どう云ふ風にしたらよいかと云ふことを知らなければならぬ。（此事は下に再び述ぶ）多くの腰の掛け方は風の荒い海岸の松の木のやうに、わッちこつちに捻れて居ても氣が付かぬ。普通の家でさう云ふことをすれば、素人でもエライ行儀が惡いと云ふことを氣が付きますが、腰を掛けての行儀には氣が付かぬ。正しい机腰掛を拵えて與へても、生徒がおチャンと座はりをすることを知らぬ。又教員自身さへおチャンと座はることを知らぬから、ヨシ正しい机腰掛を與へて正しく座はることをせぬ、又小言も出來ずに濟むもう一ツは字を書くときに姿勢の正しくないのであります。字を書くと云ふことに就て、日本の書家などは、大變喧しいことを云うて、懸腕直筆でなければ、字を正しく書くことが出來ないと云ふことであります、ところが初は懸腕直筆などで、字が書けるものでない。併しさうやると大變上手になるさうであります、私共はやッたことはありませぬが、大きい字を書くには懸腕直筆でなければならぬ、指の先きでばかりで書てはならぬとか、大變喧ましいものであります、心を臍下に靜めて

とか云ふ法がありますが、學校では筆を眞直にせいと云ふことは言ひますが、座ッたときと腰を掛けたときとは様子が違ふから之を考へねばならぬ、前にも御話した通り、字を書くときには、必ず腰掛と机と重ならせなければならぬ、假令適當の机腰掛を與へても、此が重ッて机は臍より上に來て居らなければ、書けないのであります。其字を書くときの行儀を正すことをせぬので身體がどッちにか曲ッて來るそこヘ持つて來て、前に御話したやうな人間はと言へば弱いヤッ、身體の軟かいやつであるから、それでどうしても身體の曲がることは免れませぬ。それならば一人殘らずドシ〱片ッ端から脊柱彎曲症に罹りさうなものでありますが、それはさうで無いと云ふものは、多くの中には筋骨の强健なやつもある、字を書いたり本を讀んだりするときよしや不正な姿勢をしても、それが濟んだ後活潑に運動をするから自然の曲つたのを、矯正して仕舞ふと云ふやうなことから、免れることが澤山ある。

それから其外に又言ふて見ますると、下肢のチンペがあります。米國のモルトンと云ふ人は、道樂の人と見えて、頻に足の長さを計つて見た、さうすると足が兩方同じな人間と云ふものは、實に稀なものである。普通は左の足より右の足の方が長い其違ひが大躰一吋の八分の一から一吋の間にある、つまり一分より八分までの差がある、右がいつでも長い所が今の八分までの差、或は一吋以上の差が出來ることになればそれは跛であります、つまり左右兩足に長短がある爲に脊柱が曲る、モルトン先生はさう云ふ說を擔ぎ出しました。之

は何と譯したらよいか平均性の彎曲とでも名を付ませうか。身躰が平均を失つて出來る彎曲だから、平均性の彎曲と云ふ名を付けたのでせう。それは能く調べたならば足でも手でも、右左共同じと云ふ人は殆んどない、靴屋に往つて見てもさうであります、右の足は必ず少し大きい、それで靴はいつでも右の方を大きく拵えなければならぬ、どうでもよいが、金を掛ける靴ならば寸法を取らなければならぬ、兵卒のやうなものが穿く大きな廉靴ならば寸法はなければならぬ、右だけ取ると左が緩い、左だけ取ると右がキツイと云ふやうに、人間の身躰は左右チツトでも違はぬと云ふやうな人は少ない、目でも鼻でも屹度片方が大きいと云ふやうに、足にも差があります、又其足の長さの違から自ら身躰が曲るのであると云ふ説であります。されば隨分各種の點からして、脊柱彎曲症の原因に説を立ツて居ります、成程詮索立を致しますれば原因はいろ／＼ありませうけれども、其中の主なるものは字を書くときに身躰を正しくしないと云ふことが眞の原因である。

尚ほ序に御話して置きますが、此頃學校の生徒が鞄を持て歩るく、我々は小學校所でない其後、高等の學校に這入つても、多く書物を持つには風呂敷包で持つて歩るいたものです、私が小學校に居る時代には、鞄は餘ほど貴重なもので、お母ッさんお父ッさんが買つて與れるどころでなかつた所が今日では鞄は横山町邊の問屋から田舍に送ること澤山なものであります、小兒持の鞄をドン／＼田舍に送ッて錢を捲き上げること、夥しいものであります。其鞄には紐が付いて居りますが、それを

肩にかけるのです。其人に依ッて、始終右とか左とか一方に掛けて居る癖があるものですが、右に掛ける者の肩は左が曲がる、左に掛けるものは右が曲がると云ふことになりますから、肩に鞄を掛けると云ふことは考へ物だ。歐羅巴では小兒の鞄を片方の肩に掛けるのは喧ましい、鞄を掛けるならば、學習院の生徒のやうに、背嚢仕立にして兩方の肩に掛けるやうになつて居らねば、持たせぬと云ふことにして居ります。

それから今日では用はありませぬが、脊柱彎曲と云ふことに就て御話しして置きたいのは、あとで歴史に殘ると面白いことでありますが、昔の武士は大小を左に挾んで居りましたから、自然左の肩が昂がる左の腰に重い物を下げて居りますから、左が昂がる、それが癖になッて、今でも九州の書生輩はわざと左肩を聳かして居る、廢刀令が出たのにまだ思ひ切れずに左を昂げて居る、是れ生れもつかぬ不具に身をなす愚人である。

それから尚ほ申上げて置きますのは、脊柱は前後にも亦左右にも曲がると云ふことであります、前後左右に曲がると云へば、一方から云ふと四方八方に曲がると言つてもよい、其曲り方を間違ひぬため前後に曲ッたのを屈曲と云ひ、左右に曲つたのを彎曲と名付けます。私の彎曲と云ふて居るのを側曲と唱ふる人もあるやうですが、私は屈曲と言ッて居ります　其屈曲にも二た通あります、二タ通りとは前に屈曲するのと、後に屈曲するのとの二です、彎曲にも亦二通りありまして左に彎曲するのと、右に彎曲するのとあります。それで其曲りの方角を知らなければならぬ、曲がると云ふ

ても孰れの方へ曲ッたのが、曲ッたと云ふの、方角であるか、例へば脊柱が後に曲ッたと言ひます、即ち脊柱の後屈でありますが、これは脊椎の曲がると云ふのは、脊柱の曲りの尖りある方角に就て名を付ける、即ち脊骨が後に飛び出して居りますから、之を後屈と言ひます、此後屈症は女子などで裁縫を始終やる者が、前に机でも置いてやれば曲がりませぬが、机を置かずにやると身躰が前へ屈して居りますから、脊柱が後に曲がる、俗に之を猫脊と申します、猫も當り前のときはやりませぬが、犬でも見てぞッとしたときは、此後屈をやる、それで脊柱が後に曲ッたものを猫脊と言ひます。これは女子に餘計あるものですが男子でも能く調べると丸で無いではない。左右に曲ッた彎曲の方角も同じ極め方であつて、脊柱の曲りの尖ッた方を押へて、左とか右とか、其曲りの向いた方を以て方角を極める。之を圖に書いて見ると斯う云ふ風になる

右方彎曲



左方彎曲



aは頸椎　bは胸椎部　cは腰椎部

外曲線は强度のもの　内曲線は弱度のもの

中の直線は中心線

之に依つて右方左方を極めるのであります、即ち胸椎に在る凸起を捕へて、右方とか左方とか云ふ

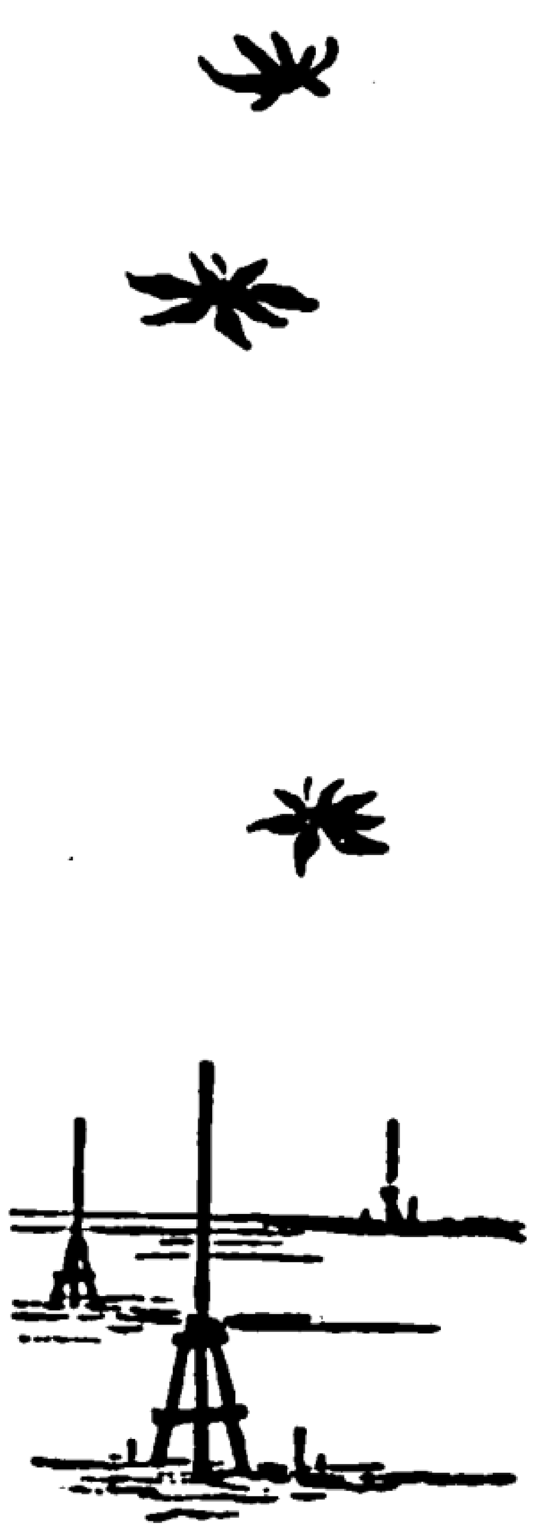
ことを言ふのであります。脊柱には頸椎、胸椎、腰椎とありますが其中の胸椎にある凸面を捕へて之は左方だ、之は右方だと言ひます、而して此場合に於て、通例腰椎は胸椎とは反對の方に向ッて居るものです。之を要するに脊柱と云ふものは、珠數を引張ッたやうなものであッて、彈力のあるものでありますから、上の方が右に曲がると、下の方は左に曲がると云ふやうに、上下反對の方角に曲るものです、そこで其左右を極める時分に、其極める場所が分らぬと、右と付けてよいか、左と付けてよいか、分らぬと云ふことになる。殊に實際の問題になると中々六ケ敷い不馴れの者にはどッちに付けてよいか、分らぬのである。其凸面が顯著(即ち強度の分)なれば、誰にでも判るが、ナシ崩しに曲つたの、即ち弱度の分は實際分らぬのがあります、上の方がクキッと曲つて下へ伸びたのがあり、上は緩くつて下がクキッとなッて居るのもあります。

固より子孫が生れて、そこに出たばかりのときの脊柱と云ふものは、眞直なものであります、前後左右少しも曲りなしの眞直なものであります、これが少し歩るき始めるとか、坐はり始めると云ふやうになるに從ッて、脊柱に天然の屈曲が起ッて來る、それは前後に曲かッた屈曲の方で、即ち生理的のものである、之は人間の生きた身體でも能く分かり骨格にしても分かります。故に此身體に自然の彎曲があると云ふのは、歩行をしたり坐ッたりするから出來るので、生理的のものであるが、左右に彎曲する要は少もない。其左右に曲がると云ふのは、必竟何かそこに原因があッて起るべき

もので、生理的必要のものでない。然るに世間には、人間の脊骨には彎曲ばかりでなくして、彎曲も生理的にあるべきものであるやうに、言ふ人もありますが、私は其説には服さぬ。若し彎曲するのが自然のものであれば、人間の身體に是非彎曲せにやならぬと云ふ、確たる必要がなければなりませぬが、少しも左右に彎曲すべき必要がない。而して少しも彎曲のない脊柱と云ふものも、隨分澤山ある、現在言ふて見ると、能く田舍には物を頭に載せて歩るく人がある、例へば京都の八瀬、大原の大原女とか、畑のうばとか云ふやふな者の脊柱は眞直であります、沖繩の女なども、何でも頭に載せます。京都の八瀬大原女などは、我々はとても負えぬほどの薪を、頭に載せて往く所などを見ると、脊柱が眞直でなければ、甘く歩けるものでない、それで腰で調子を取ッて歩るく、少しでも身が曲ッて居ッたならば、おッこつて仕舞ふだらうと思ひます。それで脊柱は天然左右に曲がると云ふことはない、若し彎曲して居れば、何か故障の爲に曲がるのであると斷言されませう。

◎箴言

貴人の前に久しく侍べり、足しびれ、にはかに立つ事ならず、たふれふすことあり、立たんとする前より、かねてみづから足の左右の大指を、しば／＼動しのべかゞめすべし立がたきのうれひなし、



寄書

◉姙娠中の衞生法

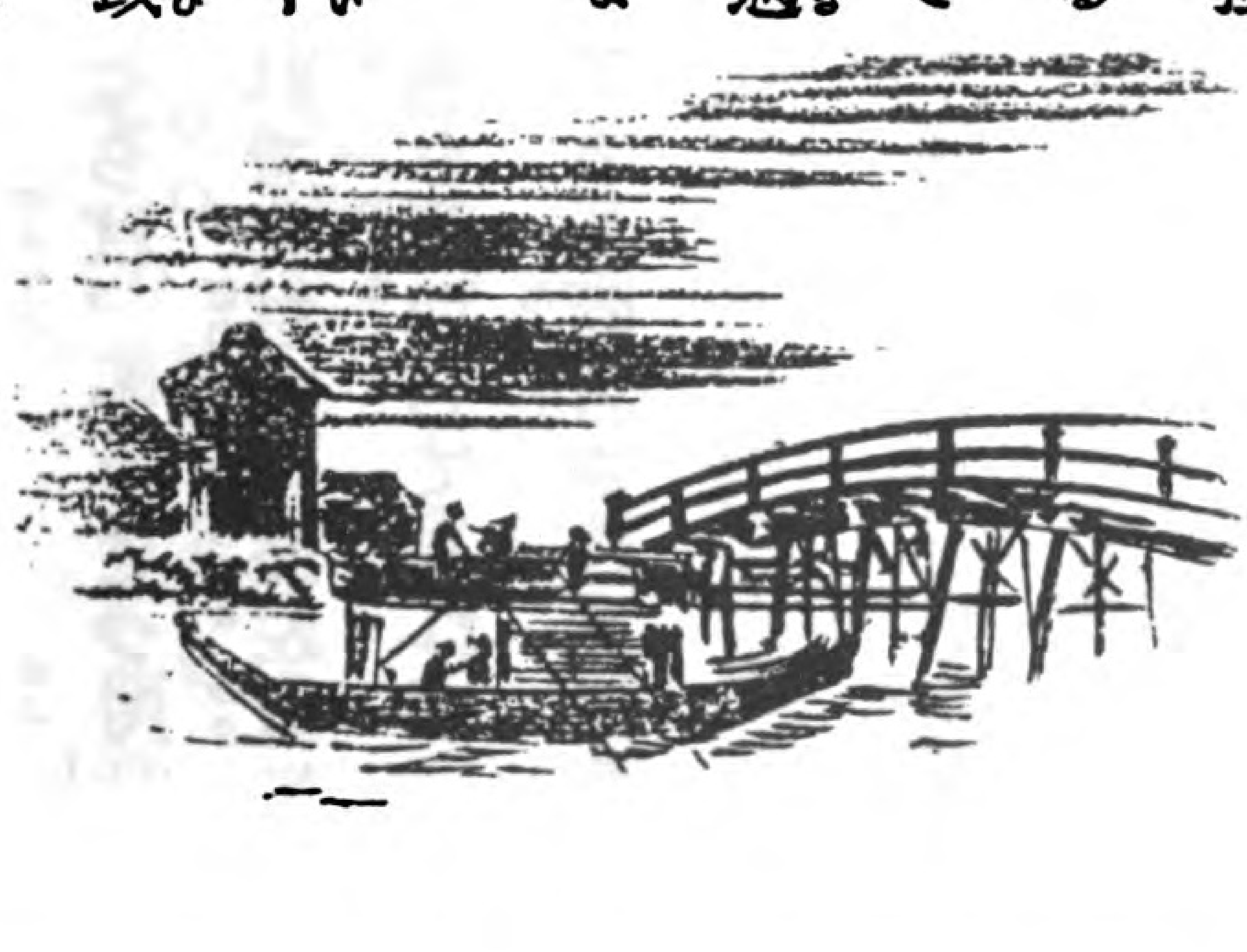
Dr S. N.

古來我邦に於ても懷姙中の注意は少からす口碑に存し皆人の知る所なりたとへは懷姙中は高き所に登るべからす棚のものゝ上け下しを爲すべからす火事は視さる樣にすへし轉ばざる樣に注意して歩行すへしなと種々樣々の教誨あり之れ皆實驗上の金言自から眞理の存するや明なりと雖も猶ほ盡さゝること多し仍て左に姙娠中に於ける食事衣服の注意を初めとし守るへき要點を擧け會員諸君の懷胎經過佳良にして無事玉の如き小兒を分娩せられんことを祈る

一食事　無論消化し易き牛乳、牛肉、鳥肉、魚肉、鷄卵米其他動植物にして常に好む所のものは充分適度に食すへし

刺戟すへきもの餘りに香氣の高きもの并に亞爾箇保兒分を多く含むものなどは宜しく避くへしと雖平素強き酒類に慣れたる人は之を全廢して却て害あり故に適度に飲用するをよしとす

姙娠するときは平素食して酸敗し或は嘔氣を催し亦は



胃病下痢頭痛を發し然らされは便泌を惹き起す等のものをも好み食するに至るものなれとも平常用ひ慣れさるものは食せさるを安全とす

一衣服　はなるへく輕くして冬期は暖きもの夏と雖身躰に強く冷氣を感せさるものを撰ふへし又衣服帶紐の類をも餘り緊約して呼吸を妨け血



液の循環を害することなき樣に充分注意すべし古來我日本に行はるゝ腹帶は至極衛生に叶ひたるものにて第一腹部を冷すことなく第二子宮の位置を固持す第三下腹部の前下方に下垂するを防遏す殊に屢姙娠したることある人に必要とす第四胎兒の動搖を感ずることゝ少し第五母體の運動を容易ならしむる等の功能あるものなり故に往時は不同意を唱えし歐米人も今は之を賞賛するに至れり腹帶になすべき地質は木綿フランネル等を最良とす

一入浴　一週日間二三回の入湯は惰るべからず月を重ぬるに隨ひ入浴の數度を增加し一週間三四回とするを良とす

一乳房腰部は石鹼水にて洗淨し殊更淸潔に保べし鼠蹊部膝膕部乳房の下は爛し易き部位故薄



きザリチール酸水或は石炭酸水（何れも千倍

位のものにて可なり）を以て一日一兩度洗滌するを良法とす且つ姙娠第七八ヶ月位に至れば乳房には最も注意し日々石鹼水にて洗ふは勿論表面の皮膚に附着する結痂不潔物の類は叮嚀に除去し糖酒（ルーム）コンニヤク（ブランデー）赤酒槲皮煎などにて洗ふも宜しき法なり乳房は小兒養育に關する最も重要なる者なれば決して等閑に附す可らず



一姙娠後に至り今までの生活狀態を變更するはよろしからず姙娠中は顚倒せざる樣注意して強き動搖を避くべし殊に禁ずべきは西洋人の好物なる舞踏其他乘馬跳躍高き處に登ること階段梯子の上り下り凸凹不平の悪道を車に乘ること幷にバチ強き車に乘ること洗濯物を竿に掛け高き所に乾すこと及按摩等なり

一新鮮の空氣中適度の運動は忘るべからず之に反し寄席芝居夜會舞蹈場などには往くべからず

一姙婦と雖一日八時間の睡眠は必要とす寢室は空氣の流通良く餘り狹からず太陽の光線射入し易き部屋を撰擇すべし

一精神感動は害あり勉めて之を避くる樣注意すへし

一最も注意すへきは產婆か自個の手前勝を凡三十倍の石炭酸水又は千倍昇汞水等して消毒するにあらされは決して內外診共行はしむる可からさることと之なり

姙婦も受診前にはザリチール綿花及薄き石炭

酸水等を以て必ず外陰部を洗淨するを要とす
一出産に切迫するときは石炭酸水昇汞水等醫師の指圖に從ひ備へ置くを必要とす
一産室には可成的不要のものは置くへからす室は狹隘ならすして空氣の流通能きを第一の要點とす出來得べくは出生兒の室は産婦の室に隣するをよしとす

◎箴　言

人々の最も忌み嫌ふ處は夜間の空氣なり然れども夜間の空氣は遙かに晝間の空氣よりも清潔なり故に夜間も空氣の流通を圖るべし然れども寒き時はよく患者を毛布或は蒲團にて被ひ空氣を交換し新鮮となりたるを待ち戸障子を閉すべし換氣は病者に取りて最も必要なりとす

衛生叢談

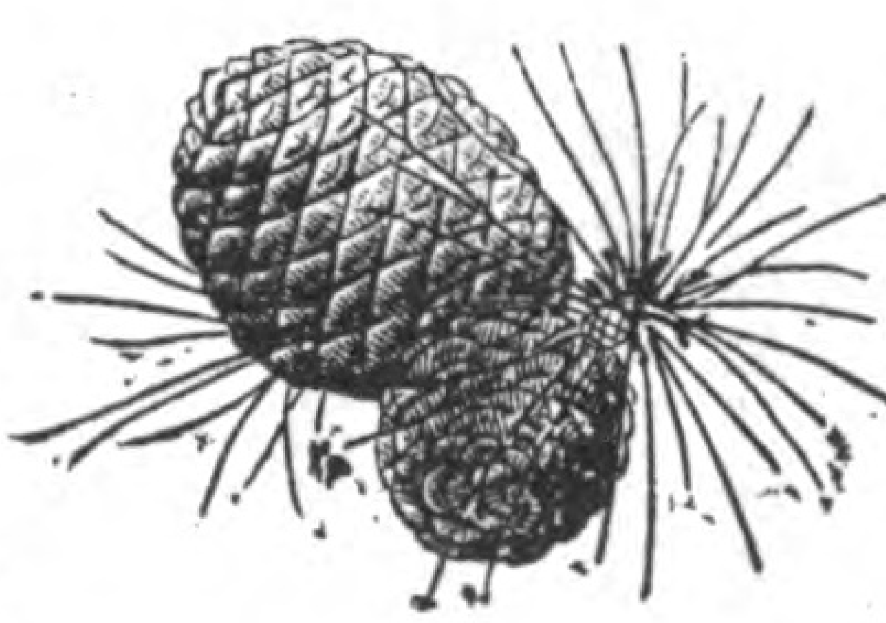
●患者を清潔ならしむる事

Dr. M. Y.

患者の身躰を清潔にすると云ふ事は必要中の最も必要でありますソレに引換へて日本の從來の風習は患者のからだを拭ふと云ふ事が至ッて少ない常に人がからだの不潔なるを設へて「御前は病人の身躰の樣だ」と云ふことを申します。病人のからだを度々拭くと云ふ事は



非常に大切なる事で有ります。殊に汗の多く出る病人には此上もなき恩惠であります先づ身體を拭ふには室内の温度を攝氏の十八度乃至廿一度位になして拭ふをよしとす、然るに日本では前に申した通り、からだを拭ふと云ふことが至ッて少ないから病人と云へば、爪は長く生え、間には穢ない垢が溜ッて居ります、首の廻りには、鍬か鋤でなければ取れぬやうな垢が附いて居ります。是等は充分に注意しなければなりませぬ。殊に頭髪に油を附けまするので、襟垢が附きまするから、毎日洗ふなり、拭ふなりして、垢を去らなければなりませぬ。ソレから口中も毎朝漱がするが宜しい。口中と云ふものは最も清潔にして置かなければなりませぬから、食後には必ず口漱をして舌などに食物の附いて居らぬやうに、度々掃洒をしなければなりませぬ。口中を容易く清潔にするのはドウすれば宜しいかと云ふに白い麻の布に「リスリン」の薄めたものを附けて、ソレを以て口内を能く拭きますると、奇麗になります。病氣の時には口中を漱ぐと大そうに心持の快いもので有りますから一日の中には、幾度も口を漱がしむるが宜しい。殊に熱性の患者は口漱をしますると、少しは懊惱を減ずるもので有ります。



次に看護人の最も注意すべきは藥餌の進め方、就中服用時間を守る事が肝要で有ります。此藥は、一日に何回に飲むと云ふ事は正しく極ッて居るので、藥に因り、病氣に因て一日三回に飲用する藥もあれば五回に飲む藥も有ります。之を能く守ら

なければなりませぬ。昔は煎藥で有りますから、飮料が多くても少なくても、格別危險の事も無かッたが、今日の藥劑は二時置きに飮むものを直ぐに飮んで仕舞うと云ふやうな事をしては、却てソレが爲めに、害を來たすことも有らうと思ひます、ソレ故藥を飮ませまする時間は、看護するものが注意しなければならぬ。今日は昔と違ひまして、丸藥散藥、水藥など丶種々の藥が有りまするから、水藥などを飮ませますには、横臥して居ると、「ベッド」を汚しますから、管で飮ませるとか、或は「オブラート」で包んで飮ませるとか云ふやうに注意するのが必要で有ります。其外看護婦は醫師の手傳ひをする事がいろ／＼有ります。例之ば「蛭針」を附けるのに、容易に吸ひ附かぬ時は、砂糖の汁を附けて置くと早く吸ひ附くとか、或は血液を取ッた後は冷水で冷やすとか、或は「ヒル」が餘り附き過ぎて落ちないで困る時は、鹽を附けて落すとか云ふ事は即ち水蛭に鹽は、皆看護する者が致さなければなりませぬ。ソレから看護する者は日々病人の經過を記して置いて、醫師の來診するときに、之を示して注意せねばなりませぬ、ソウすれば醫師が診察するから、診察する間の經過が明かに解ッて大に治療上の助けになります。



●病人の傍に於ける飮食物

ソレから又病人の寢て居る處で、食事をする事で有ります。病人と健康の者とが食事を一處にする

のは餘程危險で有ります。急性傳染病は申すも愚か、肺病の如きも一ッ處で食事をすると、肺病患者の吐いた痰を蠅が嘗めて、ソレで又食物に附く元來病毒と云ふものは、上等顯微鏡でも容易に見出し得ざる程の小さき毒で有ますから、肉眼ではドウしても見えない、此病毒が蠅の足先きに止まつて來



ます。其蠅は食物などにも付きまするから知らずに是れを食べますると、ソレが爲め病毒が傳染するやうな事があるかも知れぬ。實に危險極まりたることで有ります。醫師の病人の診察に參るときは、先づ直ぐに病間に通りますると、下婢や御醫師が御座ッたから、御茶を上げよと云ふて病人に觸れたまゝ手も洗はずに御茶を持ッて出る。其時に餘り快くない爲めに、飲まずに置きますると、御茶が冷めましたらうと云つて、其茶碗に又熱い、御茶を入れ替へて出しまする、醫師は病家に御茶や御菓子を貰ひに往くのでは有りませぬから、サウ云ふ心配は無くッても宜しい。却て無理に進めらるゝと病人の前で、迷惑ながら飲まなければならぬやうなことも有ります。其時は南無阿彌陀佛と云つて飲むかも知れませぬ。

●患者に對する注意と忍耐

看護するに就て、最も注意しなければならぬ事が有ります。病氣が長くなりまするど、病人がぢれまして、或は憤り易くなり、或は鬱悒することが有りまする。ソレを機嫌を取りまするのは、隨分困難で有りますが、看護する處の人と云ふものは、病人が少しく無理を言ふたとて、ソンな事を言ッては往けないよと云ふて膨れた顔をすると、病氣がなほ〳〵惡るくなりまするから、能い程に介抱して赤兒を取扱ふ心持で、毎も替らぬやうに笑を含んで居る位ゐにして居らなければなりませぬ。ソレ故病人を看護するに就ては、忍耐と云ふ事が非常に必要で有ると云ふ事は始終離れでも申して居ることで有ります。英國の看護婦の病人を看護することに就て、種々書き著したる書籍が有りますが、ソレを讀んで置きまするど、大そうに利益になる事が有ります。病人が眠るか否や物音などに驚きなどすることが有ると。ソレから眠られぬやうになります。通常病人と云ふものは、二時間も安眠しまするど、後も却ッて能く眠らるゝ樣になります。併しながら病人の眠りつかぬ處で物音に驚いたとか云ふやうな事があると後も兎角眠る事が出來ないやうになります。安眠を妨げるのは非常に病人に害を與へるので有りますから、餘程注意をしなければなりませぬ。ソレから病人の居る次の間などで微聲を以て談話をするのは、大層に病人の感觸を惡くするもので有ります。却てわ



かる様な聲で話をする方が宜しい。小さな聲で談話をすると、必ず私の病氣が惡るいに違ひないなどゝ疑ひを起して、不快を感ぜしむる様な事が有りますから、注意しなければならぬ。歐羅巴などでは爪を摩る音するも、神經家の病人には障るから、注意せねばならぬと、云ふてあります。ソレから障子の開け放しをしては宜しくない、況して日本建の家などでは「ベッド」が低いから、温い空氣が上から出てゝ冷めたい空氣が下から這入ッて來て、患者の顔面に當りまするとヽ大へんに冷めたく感じまするから、障子の開け放しなどはせぬやうに注意しなければなりませぬ。ソレから又病人に向ッて突然に話を仕掛けては往けませぬ靜かに近くに寄ッて目の覺めた時分に話をしないと驚いてソレが爲め動悸がするやうなとが有ます是れも非常に注意せねばならぬことで有ります。ソレから病人が散歩を致します時にも最も注意が必要で有ります。急に歩行ましたり。立ち止ッたりするのは惡い。少し歩行いて疲勞し、發汗したときには、其儘病室に連れ歸りたる上でなければ、無暗に戸外で汗を拭ひなどするのは宜しくありません



◉箴言

二便は早く通じて去べしこらゆるは害あり、小便を久しく忍べば小便ふさがりて通ぜざる病の元となり大便をしば〳〵忍へば痔病となる兩便ともに决してこらゆるべからず

●女子體育の必要

良田に播種したる植物は其成育もよく收穫も又多かるべし之に反して磽确なる土地に播種したるものは勞のみ多くして其發育もあしく遂には萎靡枯凋をまぬかれざるべし人の身躰に於けるも亦これと少しも異ならざるなり

我國維新以降智育の發達は長足の進歩をなせしといへども躰育の一事にいたりては寔に寒心に堪へざるところなり此頃の學生を見るに稍もすれば腦病とか脚氣、胃病、肺結核、僂麻窒斯等種々なる病に犯されいづれも痩せ枯れたるもの顏の青ざめたるもの多く躰軀の完全なるものとては又まことに少しとなげきても猶餘りありといふべし是れ蓋し時世の變遷は學術の專攻と共に一般武術志想の衰滅に歸し文弱にながれ過ぎたる餘弊は一の原因なるべけれども其根源なる素因をたづぬれば一に婦人躰軀の虛弱なるに歸因せずんばあるべからざるなり

母躰は胎兒の一小天地なり母躰にして强健なれば從つて健全なる子を生じ羸弱なれば又虛弱なる子を生ぜん昔し淺利義遠は板額を娶りて勇士を生ましめんとせしが如き此時代の士女は皆女ながらも武藝を研き薙刀の一手二手位は心得ずといふことなく從つて其氣象も勇快活潑ならざるはなし故に勇婦烈女の生む所の子はいづれも英雄豪傑を出せしことは青史を播きたるもの丶よく知る處なり故に母躰の肥瘠如何は實に子の體格を左



右するもの其關係實に偉大なりと云ふへし是所謂る良田に播種したる植物と磽确地に播種したるものと其成育繁茂の異なるが如き是れ自然の理の然らしむる所ならずや

（未完）

中外彙報

●傳染病研究所國家事業となる

本所は是迄大日本私立衛生會の事業として世の稗益をなすこと尠からざりしが國庫補助の期間は三十二年三月限り滿了となるに方り政府は既往に於ける本所の効績を認めて益々之を振作せんとし三十二年度以降國家事業として經營すべきの議あり衛生局長よりの通牒に接せるを以て同會に於ては三十二年三月三十一日限り同會の附屬たることを廢止して政府に悉皆引渡を終了せられたり大日本私立衛生會設立に係る傳染病研究所は明治二十五年十一月の創業より茲に至る六年五ヶ月內外有志の援助と國庫の補助により經營を全うし遂に其効果を上下に認識せられ今回國家事業に遷移するの機に會したるは同會の素志を貫徹したるものにして同會の名譽たる實に之に過ぐるものあらざるなり

●傳染病研究所附屬病室治療成績

同所の國家事業となり政府に引繼を爲すに際し同會に於ては種々の報告を爲せり今同所附屬病室に於ける患者治療成績報告に附き最近なる私立大日本衛生會雜誌より拔萃すること左の如し

明治二十七年二月十七日本所附屬病室開設以來三十二年三月三十一日までに收容したる患者は合計三千五百七人にして內全治退室二千八百七十二人輕快退室百三十二人轉地又は事故退室八拾四人死亡四百二人國立傳染病研究所へ引繼拾七人とす其詳細は左表の如し(表略)

右の內實布垤里亞血淸療法の成績を摘記すれは入室したる患者總數二千八百五十六人に對し死亡二百九十二人なるを以て患者每百人の死亡比例は一〇、二二に當れり又入室を要せすして健兒又は實布垤里亞類似症患者に同血淸の豫防注射を施したるものは合計六百二十五人あり

◉新約克市の看護婦學校

回顧すれは二十五年前迄は新約克市には正式の教育を受けたる看護婦なるものなかりしが今其養成は頗る盛んにして現に同市內にある看護婦學校は二十を以て算するに至れり近着の報によれば此頃八百人の熟練なる看護婦ウヮル、ドルフ、アストリア館に集りベルビユー看護婦學校創立二十五年祭を執行せり同校創立後第一會の卒業生五名を出してより以來遂に現時の盛大を見るに至れり試みに其起原を繹ぬるに



千八百七十二年一月二十六日新約克の有志貴婦人相會し同市に於ける諸公立病院(皆慈善病院)看護の狀況を調査することを決議し其結果として市內の教育ある貴婦人中より六十人の

委員を撰び諸病院に日々數時間を費し實際の狀況を調査せしむるに當時の看護婦は多くは是れ貧民無敎育のものにして眼中文字なきもの往々之れあり普通の看護法すら知らざるものさへ夥多あるを發見し斷然一大改革をなすの必要を認めたり此に於てか有志者の熱心は能く二万二千三百八十五弗の寄附金を集め此看護婦學校を創立するに至れり同校の於ては創始以來英國ナイチンゲール孃の法則を遵守應用し百難を排し今日の隆盛を見るに至れり



（右大日本私立衞生會雜誌）

●日本に於ける看護婦の起原

日本に於て看護婦を養成するに至りしは近頃の事にて明治十八年の頃東京慈惠醫院に於て初て看護婦養成と云ふ事を思ひ付きたり、それより續いて帝國大學の第一醫院に於ては明治二十二年十一月より看護婦を養成することゝなり赤十字社に於ては明治二十三年四月より看護婦の敎育に取り掛り何れも每年多數の卒業者を出し今日に於ては各病院等に於ても何れも看護婦の養成に力を盡の機運に向ひたり大學にては最初看護婦を養成するに當ては看護長たる英國婦人「フェッ」なるものをして敎授せられき赤十字社に於ては此看護法を定めし以來第一回に（明治二十三年四月）に十名を募集したるを以て抑も〳〵の初とす是れ今日々本に於ける看護婦養成の起源とす

●婦人病の統計

愛知病院にて明治三十一年一月より同十二月に至

る婦人科疾病の統計表を作られしが今其中に就き尤も多きものを舉げて參考に資す

子宮內膜炎	二一七	子宮實質炎	一九二
姙娠	九〇	子宮膣部糜爛	五四
子宮周圍炎	四七	外陰部糜爛	四二
尿道炎	三一	卵巢囊腫	三三
膣炎	三一	子宮癌	三四
子宮頸管加多兒	三一	膀胱炎	一六
後屈	二四	前屈	一九
子宮外膜炎	一八	卵巢炎	一五
子宮ポリープ	一一	陰外部	九
子宮出血	八	膀胱膣瘻	八
纖維腫	八	扁平	七
產後復舊不全	七		

◉赤痢患者

目下氣候不順のため全國各府縣を通じて赤痢病の流行ます〳〵甚だしく去る十三日各地方より內務省衞生局に達したる患者は本年初發以來本月十三日に至る患者總數は五万九千八百十八人死亡者一万千七百八十八人にして尚續々發生の狀況なるにより內務省衞生局に於ては此際一層豫防の道を講究協議せらるゝといふ恰も昨年當時に比すれば患者數に於て殆んど一万余を增加せる由なるか今全國に於ける就中同病の猖獗を極め今後益々發生の傾きを呈せる府縣は左の如し

因に記す東京市內に於ても同病の發生頻繁なるを以て其原因を取調べしに蔓延の一原因とも思はるゝは千葉縣地方は赤痢の猖獗にして取締の充分ならさるが爲め患者は東京へ入り込みたる

によるものなりといふ

府縣別	患者數	死亡數
東京	一、八四一	四四二
神奈川	二、三三八	五四七
新潟	九、〇四一	一、七〇四
埼玉	一、七五三	四七〇
群馬	二、八三六	五九五
千葉	一、二四一	三〇七
茨城	一、四〇三	三三九
栃木	一、一五六	一九二
愛知	一、一二六	一五六
靜岡	一、九五九	四一五
山梨	二、八七〇	五七四
岐阜	一、一四四	二六七
長野	三、七八一	七七八
宮城	一、三一六	二三五
福島	六、一七一	九四〇
岩手	四、〇四二	六五七
青森	一、一〇九	一一〇
熊本	一、二八八	一三四

◉駒込病院の入院料設定　駒込病院（其他廣尾本所共）に入る傳染病患者の自費入院料は是迄一圓及一圓五十錢の二種あるのみにて中等以下の者には充分困難の事情あるより今回五十錢の入院料を設定せんとて次の市會に提案ある筈なり

◉産婆試驗開始　去る七日より神田區役所樓上に於て産婆試驗施行する筈にて受驗者總數百十七名にして年齡は明治十三年及び十四年生れのものゝ最多しと云へり

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

◉箴言

飲むことは犬の如くし食ふことは猫の如くすべし

目と口の爲に食すな只腹加減を第一にせよ

近事談片

●衛生演劇　京都にては幻燈も面白からずとの考案か衛生演劇會なる者を組織し壯士俳優を雇ひ傳染病隱蔽の害、天理教迷信の害を脚色し西陣岩神座に於て與行せりと衛生演劇是を以て嚆矢とす

●萬國結核病會議　過般開會中なりし同會議は其要點を聞くに(一)肉食、滋養食物、適宜の運動法、强壯法を施し(二)其症に應じ適宜の藥劑を用ゐるにありと云ふに歸着せりといふ此會に於て特効藥特別療法を得るわたわさりしか嗚呼

●鉛毒と大根おろし　東京朝日新聞に曰く石塚藥劑監の談話なりと或人の語るに大阪の俳優は月に一兩度位は入浴中湯の中にありて大根おろし一ト丼を食ふ然るとき　發汗して湯は白水の如く濁り躰中の鉛毒を發散せしむると云ふ果して眞か大阪俳優に聞かまほし

●赤痢と鰌　八王子町字子安邊に赤痢流行す官命じて大掃除をなさしむ町民消毒の有害無益なることを主張し戸毎に生鰌三疋を御利或は瓶に入れ鴨居に吊して疫病神を逐ひ拂ふと今の世に此迷信驚くの外なし



●矍鑠の老媼　大坂に利井明朗なる人あり母今年

一百歳、姉七十、其孫五十、實に壯健なる一家族なるかな自から歌ふて曰く

我は百娘七十孫五十
明日は知らねど今日は先づ無事

◉氣管支炎と笑ひ　伊太利の醫學士アイウトロ氏曰く人笑ふときは胸部に震動を起すを以て氣管支炎等には分泌を盛にして大に効ありと笑ふべし々々大に笑ふべし

◉肺病患者死亡統計　凡そ世に肺病程怖るべく惡むべき者は非ざるべし特に少壯有爲の人をして夭折せしむるに至りては其悲慘も甚しと云ふべし昨三十一年中に於ける府下十五區八郡の肺病患者にして死亡統計は七千五百人なりしと云ふ怖るべきかな

◉坂東秀調と鉛毒　目下危篤に陥れる同優の病源は全く鉛毒にして役者殊に女形の顔頸皮膚の強き處は差したる害なきも肺及心臓幷びに兩手動脈の處に塗るは身體の全部に非常の影響を及ぼすものにして輕きものは腹痛又は身體麻痺等なれども腦へ來るものは最も重症なりといふ

◉一分間の生死　全世界に於ける人類生死數を算するに一分間の死亡六十七人生兒七十人の割合なりと故に一年間には死者より多きこと百二十萬人なり

◉消化器病　昨年中府下に於ける同病患者は男三、六三三女三、七八四にして女は男より百五十人以上の多數なり或人曰く婦人は兎角食物など「モッタイナイ」と云ふ心ありて腹をそこねること多きに因るものなりと

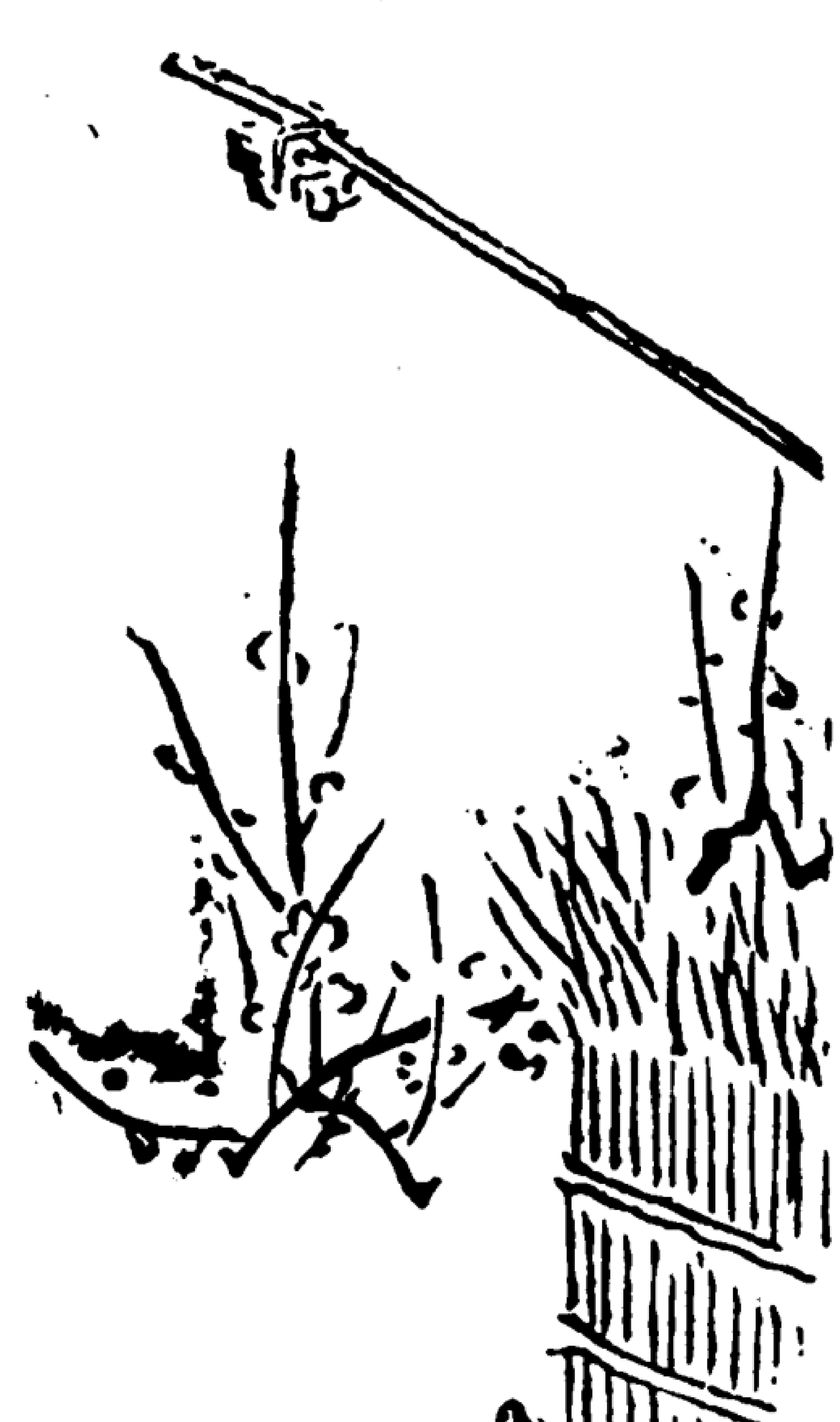
養生淺說

○平素便通悪しくのばせには　石鹸水又は冷水にて毎夕灌腸し朝便通の習慣を附くべし又蓖麻子油凡四匁位一度に服用するときは快ろよき通利あるべし

●俗に云ふ鳥目とて夕方目の見へぬ病には　肝油貳匁宛毎日用ゆべし肝油乳菓も又よろし鰻の肝鳥の肝も又効能あり

○スープ製法　坊間に鬻ぐ所のスープは水のみ多く且営養分乏しき分部を煮沸するが故に其効少なし故にスープは自家にて製するをよしとす其法牛羊雞何れにても一斤の肉を文火にて煮ること三時間にして通常六七勺乃至一合二三勺を得べし是れ純粋の営養分にして一日の用量は一合乃至二合なるべし骨をスープにせんとせば骨を細かに砕き前の法により煮出し用ゐべし但し骨は肉程の分量を得難しとす

●歯痛には　先づ微温湯にて口中を洗ひ痛める歯の中をよく掃除し薄荷精を少許の綿花に附けて痛む歯の中に入れ暫らく口を塞ぐべし又クレヲソートを綿に付け挿入するもよし又鐵線を焼きて患部に附けるもよしとす血を取る等の事は醫者にたのむべし



○入浴時間　餘り腹のへりたる時腹の張りたる時

何れもわるし食と食との中間をよろしとす

●氣管支加答兒　咽頭の痛むには吸入器にて日に十分間位づゝも二三回五十倍の硼酸水の吸水をなし「うがい藥」には同樂の硼酸水を用ゆべし

○麥めしとパンと米粥　各其消化の遲速わり米の粥は尤も早く其次は「パン」次は麥めしとす

●年若の「ニキビ」　年若き時は顔面に「ニキビ」の出來る人多し是を療せんには硼酸水にて屢々洗ひ脂肪の滲出を其儘になし置くべからず硼酸水を造るには熱湯にて溶かし用ゆべし



○肉食と齲齒　肉食の習慣は齲齒の主要の原因の一なるとは疑ひを容れず肉類の小分子は齒の間に挿まり破壞的菌の成長を促すものとす齒牙を破壞する菌は肉類の腐蝕を起す者と同一なりと

官報

●産婆試檢規則　産婆名簿登錄規則の發表

本年七月十九日の官報により産婆取締規則を發布し來る十月一日より實施することは既に報ぜし如くなるが右に關する試檢及登錄規則はいよ／＼別項の如く發布せられたり

內務省令第四十七號
産婆試驗規則左ノ通定ム
明治三十二年九月六日　內務大臣　侯爵　西鄕從道

産婆試驗規則

第一條　産婆試驗願出ノ期日擧行ノ期日及場所ハ地方長官之ヲ告

示ス

第二條　試驗科目ハ左ノ如シ

學說

第一　正規姙娠分娩及其取扱法

第二　正規產褥ノ經過及褥婦生兒ノ看護法

第三　異常ノ姙娠分娩及其取扱法

第四　姙婦產婦褥婦生兒ノ疾病消毒ノ方法及產婆心得

實地

第一　實地試驗若ハ模型試驗

第三條　學說試驗ニ合格シタル者ニ非サレハ實地試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　學說試驗ニ合格シ實地試驗ニ落第シタル者又ハ實地試驗ヲ受ケサルモノハ次回以後ノ試驗ニ於テ實地試驗ノミヲ受クルコトヲ得

第五條　產婆試驗ヲ受ケントスル者ハ產婆學校產婆養成所等ノ卒業證書若ハ修業證書又ハ產婆若クハ醫師二名ノ證明アル修業履歷書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ヘシ但第四條ニ依リ實地試驗ノミヲ受ケントスル者ハ學說試驗合格ノ證明書ヲ添ヘ願出ヘシ

地方長官前項ノ願出ヲ許可スルトキハ指令ヲ要セス其願書ヲ受理シ許可セサルトキハ之ヲ却下ス

第六條　產婆試驗ヲ願出ル者ハ收入印紙ヲ以テ試驗手數料金壹圓ヲ納付スヘシ但納付シタル手數料ハ之ヲ還附セス

第四條ニ依リ實地試驗ノミヲ願出ル者ト雖モ本條ノ手數料ヲ納付スヘシ

第七條　地方長官ハ學說試驗及實地試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付シ學說試驗ニ合格シタルモノニハ證明書ヲ交付ス

第八條　地方長官ハ受驗人心得其他試驗場ノ整理ニ關スル條規ヲ定メ試驗場ニ揭示スヘシ

當該官吏ハ受驗人心得其他前項ノ條規ニ違背シタル者ニ退場ヲ命スルコトヲ得

內務省令第四十八號

產婆名簿登錄規則左ノ通リ定ム

明治三十二年九月六日　內務大臣　侯爵　西鄉從道

產婆名簿登錄規則

第一條　產婆名簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

一　登錄番號登錄年月日

二　族籍（外國人ナルトキハ其國籍）氏名年齡住所

三　產婆試驗ニ合格シタル地方廳名其年月日（產婆規則第十八條ニ依リ登錄スルモノハ其旨ヲ記載ス）

四　開業地（住所以外ノ地ニ於テ開業スル者又ハ出張所ヲ設クルモノハ之ヲ記載ス）

五　業務ニ關スル犯罪禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪（其年月日事由）

六　產婆業ノ禁止停止解除（其年月日事由）

七　名簿取消ノ年月日事由

第二條　產婆名簿ハ別記樣式ニ依リ調製スヘシ

第三條　產婆ノ業ヲ營マントスル者ハ本令第一條第二號第三號第

四號ノ事項ヲ明記シテ其住所地ヲ管轄スル地方廳ニ願出テ産婆名簿ニ登錄ヲ受クヘシ

第四條　産婆規則第五條第一項ノ場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ハ産婆名簿ノ取消ノ登錄ヲ爲シ其登錄事項ノ謄本ヲ以テ後ノ管轄地方廳ニ其旨ヲ通知スヘシ

後ノ管轄地方廳ハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟タス本人ノ願出ニ依リ直ニ産婆名簿ニ登錄ヲ爲スヘシ但必要ト認ムル場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟チ又ハ之ニ照會ヲ經タル後登錄ヲ爲スヘシ

第五條　産婆名簿ノ訂正又ハ取消ノ登錄ヲ爲ストキハ其部分ニ朱線ヲ畫シ訂正又ハ取消ノ事由年月日ヲ朱書スヘシ

第六條　産婆名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ハ謄本手數料金五十錢ヲ納付スルトキハ登錄ノ謄本ヲ受クルコトヲ得

謄本手數料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

別記）産婆名簿樣式ハ略ス

廣告

大日本婦人衛生會々報

●本會の特別會員なる安達芳子はに本會のため九月以降左の通會員の種類を變更せられ規定の會費を納付せられたり

終身會員　前特別會員　安達芳子

◉本會の例會　追々暑氣も薄らぎ候に付本月下旬開會の豫定に候處講師の中にも未だ避暑地より歸京せざる方多く準備上本月は大に切迫致し候間來月第一土曜日に延會可致候間右御了承有之度候也



本會入會者報告（九月中）

○鹿兒島喜久子紹介

●山梨縣東八代郡石和仲町二百十一　通常會員　根岸ともゑ子

○河崎春子紹介

●千葉縣匝瑳郡福岡町　通常會員　香取千代子

○安藤てつ子紹介

●芝區明船町十二番地　通常會員　宮崎篤子

●京橋區木挽町一ノ十五　通常會員　佐伯すゞ子

○尾上けい子紹介
●東京日本赤十字社　學生　青井てつ子
●仝　所　學生　谷田貝古蟬子

○青木すゞ子紹介
●下谷區練塀町六十荒井方　通常會員　荒井かめ子
●淺草區新福田町五番地　通常會員　相坂壽美子

○澤邊ぎん子紹介
●麹町有樂町一ノ五　通常會員　奥村知惠子

○淺野かま子紹介
●島根縣松江市茶町十九　通常會員　桑原春子

○廣澤春子紹介
●本郷第一醫院　學生　山田まさ子

◎磯田かつ子紹介
●本所區相生町四ノ十七　通常會員　山本きよ子

○齋藤せん子紹介
●麻布區飯倉片町二十七　通常會員　田村あき子

○淺田とみ子紹介
●山形市濟生館　通常會員　千葉てる子

○小倉すゑ子紹介
●麻布區市兵衛町二ノ八十四　通常會員　嶋田しん子

○三浦銈子紹介
●芝區櫻川町十八番地　通常會員　佐々木貞子

○事務所申込
●芝區三田四國町二十八番地　通常會員　井上美代子

◎和田愛子紹介
●牛込區拂方町十一番地　學生　山田文子
●牛込區辨天町六十七番地　學生　南部靜枝子

○藤田重之助君紹介
●牛込區辨天町四十一番地　學生　中山春子
●牛込區赤城元町十六番地　通常會員　小笠原なか子
●豐多摩郡戸塚村五百七十三　通常會員　小川まつ子



轉居

●茨城縣眞壁郡下妻町裁判所宿舍へ　秀嶋千代子
●大分縣大分郡荷揚町七十一へ　安田鹿子
●栃木縣宇都宮大寛町三十七へ　春日井啟方　大槻清子
●静岡市西草深町四十二秋山常造方へ　秋山盼子
●芝區本芝四丁目廿四大澤百太郎方へ　大津やま子
●京橋區本材町三ノ十一へ　高岡波子
●山形縣酒田町上台町へ　鈴木よし子
●淺草區松葉町三十二山路事務所内へ　山路光子
●麻布市兵衛町二丁目八十四　小倉すゑ子
●攝津國西須磨村須磨寺前へ　椿尚子
●神戸　三川わさ子

●普通看病法講習生募集

東京帝國大學醫科大學附屬醫院にて右講習生を募集す志願者は來十月二十日迄に願書に履歷書を添へ試驗期日に出頭すべしと

規則書入用のものは事務室に申出でらるべし

人員二十五名

年齡　滿二十三年以上三十五年以下の女子にして家事に係累なきもの

試驗期日　十月二十四日午後一時

試驗科目

一　讀書　漢字交文　二　作文往復文

三　加減乘除　四　躰格

農商務省貿易品陳列館及び上野公園
商品陳列館に上等人力車出品有之候

保險附人力車大販賣廣告

弊店儀從來人力車製造販賣罷在候處大方諸彥の御引立を蒙り日に增し盛大に相成候段辱奉深謝候弊店製造の人力車は車躰構造の堅牢なること形狀の格好よきこと殊に車の出方至て輕くして輓子の勞力を省き且皆樣方のお乘好きこと等は已に世人の定論も有之候猶今後益々大勉强を以て製造販賣仕候間何卒陸續御用被仰付度伏て奉希候謹言



漆細工は本邦特有の技術に有之候へば益々改良進步の道を謀り益々邦人の技能を發揮せさるへからざることに御座候然るに當業者多くは目前の利を計り粗造品を製出致し候ため終に内外人の不信を來し我が特技たる斯業も今や振らざるに至り候は實に慨嘆の至りに堪えず候小生大に感ずる所有之乍不及徐々挽回の策を講ぜんことを自任仕り以後器物其他塗物一式極堅牢に仕揚げ御注文に可應候間御用向の節は何品に不係御一報被成下候はゝ早速參堂可仕候頓首

東京本鄉春木町二丁目九十六番地

伊東竹三郎

保險附人力車製造販賣店

（明治二十六年四月四日遞信省認可）

廣告料		
一頁	金二圓	總て前金さし割引せず
半頁	金一圓	
一行	金六錢五厘	

本誌定價　壹部　金貳拾錢　毎月一回發行

發行所　東京市赤坂區仲ノ町十八番地　私立大日本婦人衞生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷者　東京牛込區矢來町三番地　吉岡嚴八

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場